

令和3年度第2回 感染症発生動向調査部会

令和3年5月19日

月番：馬場 尚志

1 前月の感染症発生動向について（2021年第13週～17週・4月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 結核は高齢者を中心に毎週報告あり（本年累計の対前年同期比 79.6%、対前々年同期比 73.8%）。
- ・ 梅毒も毎週報告あり（対前年同期比 73.9%、対前々年同期比 60.7%）。8例すべてが男性であり、うち7例が早期顕症であった。
- ・ E型肝炎は第15週から17週にかけて1例ずつ計3例の報告あり（対前年同期比 300.0%、対前々年同期比 100.0%）。
- ・ レジオネラ症は第17週に2例の報告あり（対前年同期比 200.0%、対前々年同期比 100.0%）。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症は第17週に本年1例目の報告あり（対前々年同期比 5.0%）。

<定点把握対象疾患>

- ・ RSウイルス感染症は全国的に増加傾向がみられ、岐阜県内でも期間中51例の報告あり（対前年同期比 571.0%、対前々年同期比 83.8%）。
- ・ 咽頭結膜熱は33例報告され、前月比 150.1%と増加傾向である（対前年同期比 95.0%、対前々年同期比 80.0%）。
- ・ 感染性胃腸炎は432例報告され、前月比 198.7%と増加傾向である（対前年同期比 256.1%、対前々年同期比 59.1%）。
- ・ 突発性発疹は64例報告され、前月比 141.6%と増加傾向である（対前年同期比 126.5%、対前々年同期比 86.9%）。
- ・ 性感染症は、いずれも前年、前々年とほぼ同様の発生状況である。

2 検討すべき課題

- ・ 前年と比較し増加傾向がみられる小児科定点疾患について（その背景要因など）
- ・ 梅毒罹患の背景要因について（特に早期顕症において男女比に変化あり？）

<保健環境研究所から>

- ・ E型肝炎について

3 情報提供すべき事項

- ・ 昨年と比較し増加傾向がみられる感染症について
- ・ 夏に流行する感染症について（流行の兆しがみられたら速やかに）
- ・ 新型コロナウイルスワクチン接種について

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 令和3年度インフルエンザワクチン製造株の決定について（A型は変更、B型は昨年度と同じ）

- 厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/000772862.pdf>

- ・ 百日咳菌抗原定性検査の保険収載について（5月1日から適用、ただし発売日未定）
- ・ 新型コロナウイルス感染症の体外診断用医薬品（検査キット）の承認情報について
- 厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_11331.html など

5 その他（感染症対策推進課から）

- ・ 組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）「ヘプタバックス水性懸濁注シリンジ 0.5mL」の供給再開について
- ・ 令和3年度インフルエンザHAワクチン製造株の決定について（通知）

<検討結果>